

令和元年度第1回岩倉市自殺対策計画推進委員会 議事録

日時：令和元年10月25日（金）
午後2時～

場所：市役所7階 大会議室（東）

1. あいさつ

委員長：皆さん、こんにちは。自殺対策計画を当委員会で作りまして実施が始まったわけですが、やはり計画を作るだけではなくて進めていくところが大切だと思いますので、本日の会議についてよろしくお願いいたします。目標値のところも議論したところですが、今日の報告資料を見ていると目標を達成するのはなかなか難しいと感じました。ゲートキーパーというのももちろん大事ですが、少し調べるとその背景となる要因に対する対策も必要であるとそう感じています。今回の会議では進捗の中で幅広い取り組みについて報告を頂くことになっています。間接的ではあるけれども大事だと思っています。

2. 議 題

【資料1】平成30年岩倉市自殺統計

【資料2】自殺対策計画推進進捗シート

【資料3】令和元年度自殺対策推進事業

【資料4】参考：ゲートキーパー研修資料

(1) 平成30年岩倉市の自殺統計について

委員長：（1）平成30年岩倉市の自殺統計について、事務局から説明をお願いします。

※ 資料1に基づき事務局説明

委員長：ありがとうございました。この計画の進捗を見るうえでの非常に大事になると考えられる2018年の数字統計について報告がありました。残念ながら、2014年度の水準にいつってしまったということでした。これについてご意見はありますか。

委員長：勤められている方が2名ということでしたけれども、この2名の方の年代については30代～50代ということでしょうか。

事務局：内閣府のホームページにある数字をもとにしておりますが、こちらにはそこまでの情報が出ていないため分かりません。

(2) 計画推進の進捗報告

委員長：事務局から説明をお願いします。

※ 資料2、3に基づき事務局説明

委員長：ありがとうございます。意見等がありますか。

米井委員：生きることの促進の居場所づくりの推進にある、健康課が行っている事業のツインズ交流会は三つ子以上も含むという理解でよろしいですか。

事務局：三つ子以上も含みます。

米井委員：大切な人を亡くされた人のお話会は、なくされた人の年代によって、差がでてしまうと思うのですが、どういった感じで進んでいらっしゃるのか分ければ教えてください。

森山委員：以前関わっていたのでお話させていただきますが、長寿介護課が主となって亡くされた方がいるからということで始まって4～5年になるのですが、市役所の2階のレストランで1時間半から2時間くらい、長寿介護課の職員と保健師と包括の職員が入ってなかなか外に出る機会がなかったりする人に対して自分の気持ちを吐き出すと少し楽になる、その中に配偶者をなくされた男の方もおられれば、小さいお子さんをなくされた方も見えて毎回4～5人の方が見えて自分から言葉に吐き出すことで少し楽になるためにそういう場を設けているということで、その人が自殺するとかそういうことではないと思うのですが、あなただけではないよということで気持ちを楽にするための会議でした。

委員長：民生委員に対してのゲートキーパー研修ということで、ゲートキーパー研修を受けられたということで、河村委員いかがでしたでしょうか。

河村委員：ゲートキーパーという言葉を知らないひとも多かったので、やったらどうかなということで行いました。

委員長：民生委員の皆さんの反応はいかがでしたか。

河村委員：皆さん何らかの形で似たような研修に毎年参加してらっしゃるので、まったく知らないわけではないのですが、やっぱり相談を受けた際の対応があれでよかったのかと悩むこともあるので、見直す意味でもやった意味はあったと思います。

委員長：その後も引き続きこういう形の研修はあるのでしょうか。

河村委員：そうですね、民生委員の活動として研修に参加させていただいています。行政が計画を作成したということでこういう研修を行っているのです、こちらも今後も参加させていただきたいと考えています。

委員長：ほかには何かありますか。

櫻井委員：フードバンクについて具体的にどのようなことを行っているのか教えてください。

事務局：平成30年度から実施しているもので、生活に困窮しているという相談の中で、食料が必要であると判断されればNPOから食料をいただいております。人によっては小分けにしてお渡しするなど、支援につながるように計画的に行っています。

委員長：どのくらいの利用がありましたか。

事務局：10件ほどになります。

委員 長：ほかには何かありますか

宮部委員：失業者への相談支援の実施ということですが、実際には生活困窮者の自立支援と関連してハローワークから岩倉市のほうへ巡回相談を第２・３水曜日の午後から予約制で来させていただいています。こちらに進捗にいたら如何でしょうか。

事務局：ご指摘ありがとうございます。進捗として追記させていただきます。

(3) 今後の計画の推進について

委員 長：事務局から説明をお願いします。

事務局：今後の推進についてですが、事務局としても今後の取り組みについて悩んでいるところです。今回のように中間報告を重ねていけばよいのかどうか。重点施策をやるべきであるとは思いますが、資料３を見ていただいてもわかるとおり特に予定としてはたっていない状態であります。今後の取り組み方について皆様の意見を頂ければと思います。

委員 長：２０２３年までの計画となるわけですが、下半期だけでなく来年度以降の計画等についても何か意見があればおっしゃって頂ければと思います。

檜木委員：資料２はそれでよいと思うのですが、統計にでている現実亡くなった方たちの状況に応じた対策も必要だと思います。個別の状況についてどの程度把握されているのですか。

事務局：今回提示している以上の情報については現時点では把握していません。

檜木委員：難しいとは思いますが、わかる範囲で具体的な状況というのも解析していかないと対策というのどこに重点を置いたらいいのかというのが分かりにくいのではないだろうか。具体的な情報があつたほうがイメージしやすいのではないかと思います。

委員 長：今回の数字に表れている方がどうだったかわかる範囲でいいので確認をしていただければと思います。

事務局：確認し、次回また報告させていただきます。

委員 長：地域福祉計画のネットワークを活用するとあるのですが、具体的にいつごろまでというのがあれば、教えてください。

事務局：具体的にいつということころまでは決まっていません。地域福祉計画でも現在小学校区ごとの部会を作って連携を進めているところで、こういったネットワークを使えば一番身近になるかと考えていますが、いつまでというところまでは至っていません。

委員 長：実際に自殺につながる一歩手前というところだと思いますが、こちらもぜひ進捗について報告ください。

河村委員：２０１８年度のデータを頂きましたが、年度ごとで差が大きく単年度で見ても見えない部分が多いので過去のわかっている部分を明示されると分かりやすいのかなと思います。

委員 長：過去数年を振り返りつつ検討したいという意見ですが、事務局いかがでしょうか。

事務局：計画策定の折に2017年までも分析をしており、今回策定した昨年2018年のデータを提示しましたが、年代等の傾向は重点施策とも合致しているため、問題ないと考えていますが如何でしょうか。

河村委員：数字はわかっていますが、なぜ自殺したのかという深い背景までは情報がないため、数字だけでは分からないことが分かればまた対策も違うため、そちらについても確認したほうがよいのではないのでしょうかということです。

事務局：そこまで深くは分析していないため、分析できることはないか確認してみます。

委員 長：計画に載っているようなまとめ方を2018年についてもしたほうがよいのかなと思います。

事務局：仕事の状況の変化について長谷川委員どのような状況でしょうか。

長谷川委員：商工会ですので事業主の方が対象となっているのですが、老後の生活をなかなか考えていなかったということで、国民年金だけでは生活できない、勤められている人では引退している70半ばくらいの人が現場にでてやらなければならない、次の世代に引き継ぐということができないということが問題としてあるのかなと思います。

委員 長：人手不足というの也被われていますがいかがでしょうか。

長谷川委員：人手不足というよりもマッチングがうまくいっていないのかなと思います。以前だったら生活するために嫌な仕事もやっていたのが、考えが変わってきたのか自分が嫌な仕事だったらやらないということが増えてきたと感じています。結果として生活に行き詰ってしまう、社会とうまく関われないということがあるので、そういった部分で支援が必要であるのかなと思います。

委員 長：特に生活困窮となるといろいろな問題を抱えると思うので福祉と連携して課題解決をしていくことが大切だと思います。渡邊委員なにか意見がありますでしょうか。

渡邊委員：3月に定年退職してハローワークに通ったりもしたのですが、手に職がある人やパソコンを使える人はいいいのですが、そうでない人は65歳を過ぎて働ける場所というのが肉体労働しかない現状があるので、そういったところで対策を打ったほうがいいのではないかと最近そう思うようになりました。

委員 長：小川委員はいかがでしょう。

小川委員：社会保障が問題だろうと思うのですが、私たちのときは学校を出れば就職口がそれなりにあったのですが、若い人はアルバイト等それだけでは生活できないところで募集があったりして、社会に矛盾があるように感じる。推進の進捗を見ておもったのですが、相談に来ることができる人はまだ良くて、本当に困っている人は場所を知ることもしないというのがあっていいのではないかなと思います。そういう人にどうしたらいいのかということも考えるといいと思います。

事務局：サロンの立ち上げを補助していますが、そういうところに来ない人にはどうしたらいいかというのは苦慮しているところです。現状としては皆さんにゲートキーパーを

知ってもらって、知り合った時に繋げるというふうになればいいかなというイメージはあります。

櫻井委員：老人の生活面のなかで健康不安というのが高いです。病院が遠かったりして自分でいけない人への手助けも必要だと思います。また、ゲートキーパー研修も引き続き積み重ねるのと、ただ研修をやるだけではなくて、地域ごとに集まって地域ごとにどんなことができるか、どんな居場所づくりが必要かを話し合ってもらうのも必要だと思います。

委員 長：集まる人がゲートキーパーということを知識として知っているともた違う話し合いになると思います。ここまでは生活面で話を続けてきましたが、精神保健の面で王子田委員如何でしょうか。

王子田委員：相談支援をやる中で幅広い相談をうけるのですが、専門相談まではいけないけど、こころの健康相談ということでいってみようということでお話しをうけることが多いのですが、限られた時間の中で適切な窓口がどこか、どういう制度があるのかということを提供できるようになることが大事だと改めて感じるようになりました。

委員 長：相談の傾向としては何か変化がありましたか。

王子田委員：保健師や健診などの関わりの中でこころの健康相談を紹介される人が増えてきました。今は子育てに関することやお金に関する相談が増えてきました。他にはご家族に関することがあります。なかなか病院受診には抵抗がある、受診すべきかどうかを教えてほしいという相談があります。

委員 長：よく追い詰められていると福祉の方では言うのですが、福祉以外の面でアドバイスがあるとまた安心するのかなと思います。檜木委員も精神保健面で如何でしょうか。

檜木委員：背景までずっと考えていくと福祉全体までいってしまうけども、全部を自殺対策推進でやってしまうと拡散しすぎてしまうのではないかな。どういった背景で自殺に至ったのかというところで焦点を絞ったほうがよいのではないかな。現実はどういった背景で亡くなったかを確認してそこに対して対策をしたほうがよいのではないかなと思います。

委員 長：話が広がっていく中で貴重なご意見ありがとうございます。米井委員他の市町村との比較で如何でしょうか。

米井委員：他の市町で今年度まだよそで会議がないので比較はできないのですが、庁内での各課での連携をどこの市町でも悩んでいるようです。ネットワークの強化が推進の土台になる部分だと思いますので、ここがうまくいくといいと思います。

3. その他

委員 長：その他について事務局から説明をお願いします。

事務局：今回の委員会の内容を踏まえてまた3月に第2回の推進委員会を開きたいと考えております。その際は今年度の総括と、来年度推進の方向性についてお示しできたらと考

えております。またその中で今回頂いた課題について報告させて頂ければと思います。

委員長：すべての議題が終了しましたのでこれにて委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

以 上